

## 第3章 重要度、充足度とニーズ得点

本章では、県民生活の種々の側面に関する12領域61項目の、県民の評価についてまとめた。調査したのは、重要度と充足度であり、県民が現在それぞれの項目についてどの程度重要と考えているか、また、それがどの程度充足されているかを把握することを目的としている。

重要度については、それぞれの項目について「非常に重要である」から「全く重要でない」まで5段階に分けて回答を求め、集計にあたっては、5段階それぞれに「非常に重要である」=5点から「全く重要でない」=1点までの得点を与え、各項目ごとの重要度得点を算出した。

また、充足度についても同様に、「非常に満たされている」から「ほとんど満たされていない」の5段階に分けて回答を求め、各項目ごとの充足度得点を算出した。

さらに、重要度得点と充足度得点を算出した後、それぞれの項目に対する県民のニーズの強弱をみるために、重要度得点×(6-充足度得点)によりニーズ得点を算出した。このニーズ得点は、重要度が高くかつ充足度が低い項目で高くなる。つまり、重要度が高いにもかかわらず充足されていない項目が、人々のニーズの高いものであることに着目して県民のニーズを測定した。

### 1 生活の各側面に対する重要度

本調査では、県民生活に関する個別具体的な項目(61項目)について、県民が今の暮らしにとってどのくらい重要であると考えているかを、「非常に重要」から「かなり重要」、「どちらともいえない」、「それほど重要でない」、「全く重要でない」までの5段階に分けて回答を求めた(問1)。そして、前述の要領で各段階に5~1点のウェイトを与え、各項目ごとに平均得点を求め、重要度に関する県民の評価の指標(重要度得点)とした。さらに、これらの項目を12の領域に分類し、各領域別の平均得点もあわせて算出した。

項目別に重要度得点をみると(表3-1-1)、最も得点の高い項目は「犯罪の防止」で、次いで「老後に不安のない年金」「救急患者の適切な治療」「水使用の安心」「物価の安定」の順となっており、一方、重要度の低い項目としては、「地域行事への参加」「多様な宿泊施設の整備」「女性の職場進出」「趣味の会への参加の機会」「自治会等の充実」等となっている。平均得点1位の「犯罪の防止」(4.47点)から61位の「地域行事への参加」(2.96点)まで、1.5ポイントの幅に分布している。また、全項目(61項目)の平均得点は3.86点となっており、「かなり重要」(4点)を若干下回る水準となっている。

表3-1-1 重要度の平均得点

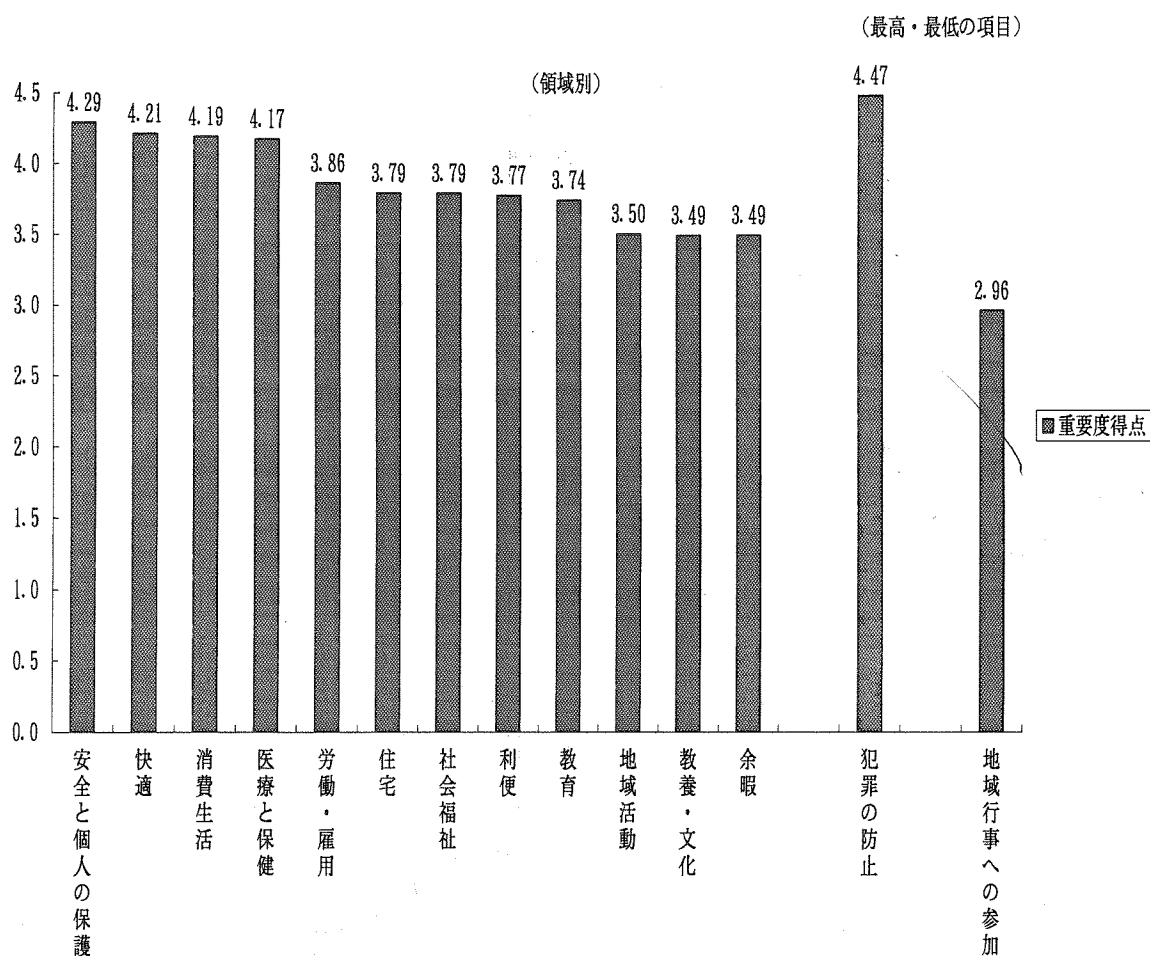
領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	変動係数 ( $\sigma/M$ )	領域別 平均得点
医療と保健	1. 体力の維持・増強	3.90	1.05	26.9	4.17
	2. 費用の心配のない医療	✓ 4.14	1.04	25.1	
	3. 適切な診療	4.34	0.98	22.6	
	4. 病気の予防・健康相談	4.06	1.02	25.1	
	5. 救急患者の適切な治療	4.40	0.99	22.5	
教育	6. 幼稚園施設・内容の充実	3.53	1.21	34.3	3.74
	7. 小・中・高校の施設の整備	3.69	1.21	32.8	
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	3.85	1.20	31.2	
	9. 高校での各人に適した教育	3.76	1.22	32.4	
	10. 大学教育の解放	3.62	1.23	34.0	
	11. 各種・専修学校の充実	3.54	1.23	34.7	
教養・文化	12. 夜遊びや非行の防止	4.18	1.12	26.8	3.49
	13. 文化施設の整備	3.60	1.18	32.8	
	14. 生涯学習の機会	3.65	1.15	31.5	
労働・雇用	15. 伝統工芸の振興	3.23	1.13	35.0	3.86
	16. 失業の不安の解消	4.26	1.08	25.4	
	17. 仕事のやりがい	✓ 4.17	1.10	26.4	
	18. 職場での安全確保	4.10	1.14	27.8	
	19. 職場内での男女の平等	3.86	1.13	29.3	
	20. 女性の職場進出	3.20	1.01	31.6	
	21. 老人・身障者の就業機会	3.72	1.05	28.2	
	22. 職業・居住地選択の事由	3.77	1.12	29.7	
	23. 職業紹介・訓練の充実	3.78	1.16	30.7	
住宅	24. 持ち家の取得	3.94	1.20	30.5	3.79
	25. 各家族員の個室の確保	3.56	1.20	33.7	
	26. 良好な住環境	3.88	1.09	28.1	
利便	27. 交通機関の利便性	3.81	1.11	29.1	3.77
	28. 渋滞の解消	3.80	1.13	29.7	
	29. 買物の利便性	3.75	1.14	30.4	
	30. 生活情報の得やすさ	3.72	1.11	29.8	
快適	31. 水使用の安心	4.39	0.97	22.1	4.21
	32. ごみ、下水の衛生処理	4.34	0.99	22.8	
	33. 公園や親しめる自然環境	3.90	1.11	28.5	
	34. 公害の防止	4.20	1.08	25.7	

表 3-1-1 重要度の平均得点 (続き)

領 域	項 目	平均得点 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	変動係数 ( $\sigma/M$ )	領域別 平均得点
安全と個人	35. 米軍基地の安全管理の確保	4.07	1.19	29.2	4.29
	36. 防災対策の充実	4.36	1.05	24.1	
	37. 交通安全の確保	4.31	1.01	23.4	
	38. 犯罪の防止	4.47	0.99	22.1	
	39. 法律適用の公正さ	4.24	1.08	25.5	
消費生活	40. 収入の着実な増加	4.26	1.01	23.7	4.19
	41. 物価の安定	4.37	0.94	21.5	
	42. 老後に不安のない年金	4.44	0.97	21.8	
	43. 税負担の公平さ	4.30	1.05	24.4	
	44. 商品・サービスの安全性の確保	4.01	1.06	26.4	
余暇	45. 商品・サービスの苦情処理の充実	3.76	1.12	29.8	3.49
	46. 労働時間の短縮	3.63	1.17	32.2	
	47. 家族とのコミュニケーションの確保	4.00	1.12	28.0	
	48. グラウンドや体育館の整備	3.52	1.18	33.5	
	49. 趣味の会への参加の機会	3.21	1.17	36.4	
社会福祉	50. 多様な宿泊施設の整備	3.07	1.17	38.1	3.79
	51. 家事、育児、教育相談の充実	3.53	1.17	33.1	
	52. 福祉施設やサービスの充実	4.11	1.12	27.3	
	53. 独居老人や母子家庭の安心	4.13	1.14	27.6	
	54. 保育所の充実	3.63	1.23	33.9	
地域活動	55. 学童保育所の充実	3.53	1.23	34.8	3.50
	56. 地域行事への参加	2.96	1.15	38.9	
	57. 集会場や公民館の利用機会	3.22	1.16	36.0	
	58. 自治会等の充実	3.22	1.15	35.7	
	59. 住民意見の行政への反映	3.82	1.14	29.8	
	60. ボランティア	3.85	1.06	27.5	
61. 相互扶助		3.92	1.02	26.0	計
県		3.86	1.11	29.2	

また、領域別の重要度得点をみると（図3-1-1）、「安全と個人の保護」が4.29で最も高く、以下、「快適」「消費生活」「医療と保健」の順となっており、県民が基本的な生活を維持していく上で必要と考えられる領域で重要度が高くなっている。一方、「余暇」「教養・文化」「地域活動」等の重要度は、相対的に低い状況となっている。

図3-1-1 重要度得点



### (1) 重要度の高い項目と低い項目

重要度の高い項目と低い項目をそれぞれ15項目抜き出したのが、表3-1-2、表3-1-3である。

まず、重要度の高い項目をみると、犯罪の防止、防災対策の充実、交通安全の確保、法律適用の公正さなど「安全と個人の保護」領域に関するものが多く、次いで、老後に不安のない年金、物価の安定、税負担の公平さ、収入の着実な増加など「消費生活」領域に関する項目や、水使用の安心、ごみ・下水の衛生処理、公害の防止など「快適」領域に関する項目が上位に並んでいる。また、救急患者の適切な治療、適切な診療など「医療と保健」領域に関する項目や、失業の不安の解消の「労働・雇用」

領域及び、夜遊びや非行の防止の「教育」領域に関する項目も挙っている。これらの項目をみると、まず生命・身体の安全に関する項目の重要度が高く、次いで生活環境の整備に関する項目が続いており、基本的な生活を維持していくために必要な項目に対する重要度が高くなっている。

今回調査は、項目の削除、統合、新設を大幅に行ったため、前回調査（平成2年）と比較可能な項目は、61項目中50項目であるが、重要度の上位15項目の動きについてみると、老後に不安のない年金（7位→2位）、防災対策の充実（10位→6位）、税負担の公平さ（17位→10位）、収入の着実な増加（19位→12位）等が、目立って順位を上げている。これらは、調査の時点が阪神・淡路大震災の直後であったことや、バブル崩壊後の長引く不況による生活への不安感が影響を与えているものと考えられる。

表3-1-2 重要度の高い項目

領 域	番 号	項 目	平成2年		平成7年	
			順位	得点	順位	得点
安全と個人の保護	38	犯罪の防止	2	4.60	1	4.47
消費生活	42	老後に不安のない年金	7	4.51	2	4.44
医療と保健	5	救急患者の適切な治療	1	4.60	3	4.40
快適	31	水使用の安心	3	4.56	4	4.39
消費生活	41	物価の安定	8	4.49	5	4.37
安全と個人の保護	36	防災対策の充実	10	4.45	6	4.36
医療と保健	3	適切な診療	4	4.55	7	4.34
快適	32	ごみ、下水の衛生処理	9	4.45	8	4.34
安全と個人の保護	37	交通安全の確保（改定）	6	4.52	9	4.31
消費生活	43	税負担の公平さ	17	4.38	10	4.30
労働・雇用	16	失業の不安の解消	13	4.41	11	4.26
消費生活	40	収入の着実な増加	19	4.35	12	4.26
安全と個人の保護	39	法律適用の公正さ	5	4.54	13	4.24
快適	34	公害の防止	16	4.39	14	4.20
教育	12	夜遊びや非行の防止	12	4.44	15	4.18

平成2年上位15項目中、上記に記載されていない項目

領 域	番 号	項 目	順位	備 考	
				平成7年調査項目との比較	順位
社会福祉	58	福祉サービスの充実	11	52福祉施設やサービスの充実	19
社会福祉	59	生活保障の確保	14	53独居老人や母子家庭の安心	18
医療と保健	2	費用の心配のない診療	15	2費用の心配のない医療	17

（注）（改定）については項目の統合を行っているため厳密には接続しない。

一方、重要度の低い項目をみると、地域行事への参加、自治会等の充実、集会場や公民館の利用機会など「地域活動」領域に関するものが多く、次いで、多様な宿泊施設の整備、趣味の会への参加の機会、グラウンドや体育館の整備など「余暇」領域に関する項目や、幼稚園施設・内容の充実、各種・専修学校の充実、大学教育の開放など「教育」領域に関する項目が並んでいる。また、伝統工芸の振興、文化施設の整備など「教養・文化」領域や、学童保育所の充実、家事・育児・教育相談の充実など「社会福祉」領域の項目もあり、その他、女性の職場進出、各家族員の個室の確保などの項目に対する県民の重要度も、比較的低い状況にある。

また、前回調査との比較では、あまり大きな変動はみられず、家事・育児・教育相談の充実（24位→10位）の重要度が低下したのに対して、保育所の充実（10位→16位）や生活情報の得やすさ（15位

→20位)などの重要度が上昇している。

表3-1-3 重要度の低い項目

領域	番号	項目	平成2年		平成7年	
			順位	得点	順位	得点
地域活動	56	地域行事への参加	2	3.28	1	2.96
余暇	50	多様な宿泊施設の整備	1	3.11	2	3.07
労働・雇用	20	女性の職場進出	平成7年新規		3	3.20
余暇	49	趣味の会への参加の機会	3	3.41	4	3.21
地域活動	58	自治会等の充実	5	3.52	5	3.22
地域活動	57	集会場や公民館の利用機会	4	3.48	8	3.22
教養・文化	15	伝統工芸の振興	8	3.58	7	3.23
余暇	48	グラウンドや体育館の整備	7	3.56	8	3.52
社会福祉	55	学童保育所の充実	平成7年新規		9	3.53
社会福祉	51	家事、育児、教育相談の充実	24	3.99	10	3.53
教育	6	幼稚園施設・内容の充実	14	3.77	11	3.53
教育	11	各種・専修学校の充実	9	3.59	12	3.54
住宅	25	各家族員の個室の確保	12	3.74	13	3.56
教養・文化	13	文化施設の整備	13	3.76	14	3.60
教育	10	大学教育の解放	11	3.72	15	3.62

平成2年下位15項目中、上記に記載されていない項目

領域	番号	項目	順位	備考	
				平成7年調査項目との比較	順位
余暇	46	週休2日制、労働時間の短縮	6	46労働時間の短縮(改定)	17
社会福祉	60	保育の機会	10	54保育所の充実	16
利便	30	情報の得易さ	15	30生活情報の得やすさ	20

(注) (改定)については項目の統合を行っているため厳密には接続しない。

## (2) 領域別の比較

前述のように、各項目における重要度の認識は、領域によってかなり差があることが分る。そこで、領域ごとの重要度の平均得点を算出し、その順位と上下15位に入った項目数についてみると(表3-1-4)、「安全と個人の保護」領域をはじめ、「快適」「消費生活」「医療と保健」などの領域の得点が高く、一方、「余暇」領域のほか、「教養・文化」「地域活動」などの領域は得点が低くなっている。また、「労働・雇用」「住宅」「社会福祉」「利便」「教育」などの領域は中位にあるが、「労働・雇用」と「教育」の領域では、項目が上位と下位の両方に入っており、項目間の変動が大きくなっている。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の高い「安全と個人の保護」領域では、5項目中4項目が上位に入っており、次いで、「快適」が4項目中3項目、「消費生活」が6項目中4項目、「医療と保健」が5項目中2項目となっているが、得点が最も低い「余暇」領域では、5項目中3項目が下位に入ったほか、「教養・文化」が3項目中2項目、「地域活動」が6項目中3項目となっている。平均得点が最も高い「安全と個人の保護」領域と、最も低い「余暇」領域では、得点に0.8ポイントの開きがあり、領域の平均得点の大小と上下15位に入った項目数の間には相関がみられることから、領域間の重要度には明らかに差があることが分る。

このように、重要度の高い領域は、日常生活の基礎的な分野が多く、一方、重要度の低い項目は、個人の価値観や関心のあり方に違いが考えられる分野が多くなっている。

表 3-1-4 領域別にみた重要度

順位	領域	領域ごとの平均得点	上位15位に入った項目数	下位15位に入った項目数
1	安全と個人の保護	4.29	4/5	
2	快適	4.21	3/4	
3	消費生活	4.19	4/6	
4	医療と保健	4.17	2/5	
5	労働・雇用	3.86	1/8	1/8
6	住宅	3.79		1/3
7	社会福祉	3.79		2/5
8	利便	3.77		
9	教育	3.74	1/7	3/7
10	地域活動	3.50		3/6
11	教養・文化	3.49		2/3
12	余暇	3.49		3/5

(注) 分母の数字は、各領域の項目数

### (3) 地域別の重要度

次に、地域別、領域別の重要度をみると(表3-1-5)、八重山地域が12領域中11とほとんど全ての領域で1位となっており、全体で最も重要度の高い地域となっている。また、那覇市は、八重山に次いで2位の領域が多く、全体でも2位となっており、以下、中部、南部、北部、宮古の順となっている。個別にみると、各地域ともほとんどの領域で全体の順位と同じ傾向を示しており、領域間の差異は認められないが、そのなかで、宮古地域における「地域活動」領域の重要度が高くなっていることと、那覇市の「医療と保健」「労働・雇用」「地域活動」領域の重要度が低くなっている点が特徴的である。

表 3-1-5 地域別・領域別の重要度得点

領域	北部		中部		那覇市		南部		宮古		八重山		県計得点
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
医療と保健	5	4.07	2	4.20	4	4.16	3	4.20	6	3.95	1	4.22	4.17
教育	4	3.72	2	3.80	3	3.74	5	3.39	6	3.52	1	3.89	3.74
教養・文化	4	3.39	2	3.54	3	3.53	5	3.22	6	3.39	1	3.70	3.49
労働・雇用	5	3.73	2	3.91	4	3.83	3	3.88	6	3.62	1	3.99	3.86
住宅	5	3.65	4	3.77	2	3.89	3	3.82	6	3.55	1	3.95	3.79
利便	5	3.59	4	3.77	1	3.86	3	3.81	6	3.39	2	3.85	3.77
快適	5	4.03	3	4.24	2	4.28	4	4.14	6	3.97	1	4.45	4.21
安全と個人の保護	5	4.16	3	4.33	2	4.35	4	4.19	6	4.07	1	4.54	4.29
消費生活	6	4.02	3	4.19	2	4.26	4	4.19	5	4.07	1	4.34	4.19
余暇	6	3.28	4	3.49	2	3.53	3	3.51	5	3.35	1	3.71	3.49
社会福祉	5	3.71	3	3.78	2	3.87	4	3.75	6	3.57	1	3.94	3.79
地域活動	6	3.43	3	3.50	4	3.50	5	3.50	2	3.52	1	3.61	3.50
計	5	3.73	3	3.88	2	3.90	4	3.83	6	3.66	1	4.02	3.86

(注) 順位は、各領域の地域間の順位である。

これを地域別の項目順位でみると(表3-1-6)、平均得点が最も高かったのは、北部と中部、那覇においては、犯罪の防止、南部と宮古が老後に不安のない年金、八重山が防災対策の充実となっている。また、2位については北部と中部、南部が救急患者の適切な治療、那覇が老後に不安のない年金、宮古が交通安全の確保、八重山が犯罪の防止となっており、3位は北部が防災対策の充実、中部が老後に不安のない年金、那覇が物価の安定、南部と宮古が犯罪の防止、八重山が水使用の安心となっている。このように、八重山を除く地域は防犯や年金の充実を最重要視しており、その中では南部と宮古が防犯よりも年金の充実をより重視している。また、八重山は防災対策を最も重視しており、年金の充実を7位、医療面を11位とするなど他の地域とは異なった状況にある。

また、地域別の項目順位を県計の順位と比較すると、北部地域では、夜遊びや非行の防止、高校での各人に適した教育、各種・専修学校の充実等に対する重要度が相対的に高いのに対して、交通機関の利便性や渋滞の解消等が低くなっている。また、中部、那覇、南部地域については、ほぼ県全体の重要度と同傾向を示しているが、その中では、那覇市で、職場内での男女の平等に対する重要度が相対的に低くなっている。一方、宮古、八重山地域は県全体の項目順位とかなり差があり、宮古地域では福祉施設やサービスの充実の重要度が相対的に高いほか、費用の心配のない医療、相互扶助、ボランティア、職業紹介・訓練の充実、商品・サービスの苦情処理の充実等が高く、逆に、失業の不安の解消、仕事のやりがい、良好な住環境、渋滞の解消等の重要度は低くなっている。八重山地域では、職業選択の自由、生活情報の得やすさ、各種・専修学校の充実等の重要度が高くなっている反面、交通機関の利便性、渋滞の解消、職業紹介・訓練の充実等で低くなっている。

このように、生活各面に対する見方は、地域により異なる状況がみられ、特に宮古、八重山地域の違いが目立っているが、これらは生活環境の違いによるところが大きいものと考えられる。



表3-1-6 地域別・項目別重要度得点順位表

県	計	順位	地域別					
			北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
38.	犯罪の防止	1	1	1	1	3	3	2
42.	老後に不安のない年金	2	5	3	2	1	1	7
5.	救急患者の適切な治療	3	2	2	8	2	6	11
31.	水使用の安心	4	8	4	4	6	4	3
41.	物価の安定	5	9	8	3	4	7	6
36.	防災対策の充実	6	3	6	6	10	12	1
3.	適切な診療	7	4	5	11	5	8	13
32.	ごみ、下水の衛生処理	8	11	7	5	9	11	4
37.	交通安全の確保	9	6	10	7	14	2	5
43.	税負担の公平さ	10	12	11	9	8	5	8
16.	失業の不安の解消	11	10	9	14	7	21	17
40.	収入の着実な増加	12	15	12	10	11	14	15
39.	法律適用の公正さ	13	14	13	12	15	13	9
34.	公害の防止	14	13	14	13	19	20	16
12.	夜遊びや非行の防止	15	7	15	15	20	19	23
17.	仕事のやりがい	16	18	16	18	13	32	10
2.	費用の心配のない医療	17	17	18	19	12	10	21
53.	独居老人や母子家庭の安心	18	21	20	16	18	17	14
52.	福祉施設やサービスの充実	19	16	21	17	22	9	12
18.	職場での安全確保	20	19	19	21	16	23	19
35.	米軍基地の安全管理の確保	21	22	17	20	29	30	24
4.	病気の予防・健康相談	22	20	22	23	17	28	31
44.	商品・サービスの安全性の確保	23	24	23	25	21	15	18
47.	家族とのコミュニケーションの確保	24	25	24	24	23	22	20
24.	持ち家の取得	25	26	29	22	24	33	34
61.	相互扶助	26	23	28	32	25	16	30
1.	体力の維持・増強	27	29	30	27	30	31	27
33.	公園や親しめる自然環境	28	32	27	26	32	29	22
26.	良好な住環境	29	33	31	28	26	40	26
19.	職場内での男女の平等	30	31	26	40	27	25	35
8.	小・中学校での能力を伸ばす教育	31	27	25	34	36	36	32

表3-1-6 地域別・項目別重要度得点順位表(続き)

県 項 目	計 順 位	地 域 別					
		北 部	中 部	那 覇 市	南 部	宮 古	八 重 山
60. ボランティア	32	28	33	31	33	18	33
59. 住民意見の行政への反映	33	34	38	33	34	24	29
27. 交通機関の利便性	34	44	36	29	28	44	50
28. 渋滞の解消	35	42	37	30	31	54	48
23. 職業紹介・訓練の充実	36	38	32	37	39	26	47
22. 職業・居住地選択の自由	37	37	34	41	38	38	25
9. 高校での各人に適した教育	38	30	35	38	44	34	37
45. 商品・サービスの苦情処理の充実	39	35	41	36	40	27	38
29. 買物の利便性	40	39	42	35	35	45	41
21. 老人・身障者の就業機会	41	47	40	43	37	37	39
30. 生活情報の得やすさ	42	43	44	39	41	42	28
7. 小・中・高校の施設の整備	43	40	39	44	48	48	43
14. 生涯学習の機会	44	50	43	45	47	35	36
46. 労働時間の短縮	45	51	47	47	42	39	42
54. 保育所の充実	46	41	49	42	43	51	51
10. 大学教育の解放	47	49	46	48	49	47	45
13. 文化施設の整備	48	46	45	50	53	43	44
25. 各家族員の個室の確保	49	53	53	46	45	46	49
11. 各種・専修学校の充実	50	36	50	54	50	41	40
6. 幼稚園施設・内容の充実	51	45	48	52	54	50	54
51. 家事、育児、教育相談の充実	52	52	51	51	52	49	52
55. 学童保育所の充実	53	48	54	49	51	56	53
48. グラウンドや体育館の整備	54	54	52	53	46	52	46
15. 伝統工芸の振興	55	56	56	55	59	58	56
57. 集会場や公民館の利用機会	56	55	59	58	57	57	60
58. 自治会等の充実	57	58	55	57	58	53	59
49. 趣味の会への参加の機会	58	59	58	56	56	55	55
20. 女性の職場進出	59	57	57	60	55	59	58
50. 多様な宿泊施設の整備	60	60	60	59	60	61	57
56. 地域行事への参加	61	61	61	61	61	60	61

#### (4) 重要度の時系列比較

次に、重要度の水準が昭和54年、59年、平成2年と比べてどのように変化したかをみるため、時系列比較し、その変化の方向を整理したのが、表3-1-7である。なお、今回調査は、項目の削除、統合、新設を大幅に行ったため、全体を通して比較可能なのは、61項目中42項目となっている。なお、昭和59年については43項目、平成2年については50項目の比較が可能である。

全体を通覧すると、重要度の変動は概して小さく、昭和54年→59年が $-0.03 \sim -0.29$ 、59年→平成2年が $+0.41 \sim -0.10$ 、2年→7年が $-0.04 \sim -0.46$ 程度の得点幅となっている。また、変化の方向という観点からみると、54年→59年では42項目全てで得点が低下したが、59年→2年においては、43項目中、上昇した項目が18、低下した項目が24と、低下傾向の項目がやや多くなっている。一方、2年→7年は、50項目全てで得点が低下している。

このように全体的な重要度の動向は、54年→59年が低下傾向、59年→2年がほぼ横ばい、2年→7年が低下傾向となっている。54年→59年では、保育所の充実、自治会等の充実、集会場や公民館の利用機会、各種・専修学校の充実、小・中・高校の施設の整備などの項目の低下が相対的に大きく、また、59年→2年では、保育所の充実、幼稚園施設・内容の充実、住民意見の行政への反映などの項目は低下したが、各種・専修学校の充実、商品・サービスの苦情処理の充実、福祉施設やサービスの充実、職場内での男女の平等などの項目の上昇が目立った。さらに、2年→7年では、家事・育児・教育相談の充実、伝統工芸の振興、福祉施設やサービスの充実、持家の取得、地域行事への参加などの項目の低下が相対的に大きくなっている。

表3-1-7 重要度の時系列比較

領域	項目	昭和54年	昭和59年	平成2年	平成7年	59年-54年	2年-59年	7年-2年
医療と保健	1. 体力の維持・増強 (新規)	-	-	-	3.90	-	-	-
	2. 費用の心配のない医療	4.54	4.47	4.40	4.14	-0.07	-0.07	-0.26
	3. 適切な診療	4.71	4.61	4.55	4.34	-0.10	-0.06	-0.21
	4. 病気の予防・健康相談	4.41	4.31	4.23	4.06	-0.10	-0.08	-0.17
	5. 救急患者の適切な治療	4.74	4.62	4.60	4.40	-0.12	-0.02	-0.20
教育	6. 幼稚園施設・内容の充実	4.12	3.87	3.77	3.53	-0.25	-0.10	-0.24
	7. 小・中・高校の施設の整備	4.20	3.95	3.92	3.69	-0.25	-0.03	-0.23
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育 (新規)	-	-	-	3.85	-	-	-
	9. 高校での各人に適した教育 (新規)	-	-	-	3.76	-	-	-
	10. 大学教育の解放	-	-	3.72	3.82	-	-	-0.10
育	11. 各種・専修学校の充実	3.44	3.18	3.59	3.54	-0.26	0.41	-0.05
	12. 夜遊びや非行の防止	4.62	4.49	4.44	4.18	-0.13	-0.05	-0.26
	13. 文化施設の整備 ※	3.96	3.77	3.76	3.60	-0.19	-0.01	-0.16
	14. 生涯学習の機会	-	-	3.86	3.65	-	-	-0.21
	15. 伝統工芸の振興	3.80	3.59	3.58	3.23	-0.21	-0.01	-0.35
労働・雇用	16. 失業の不安の解消	4.64	4.50	4.41	4.26	-0.14	-0.09	-0.15
	17. 仕事のやりがい	4.54	4.41	4.32	4.17	-0.13	-0.09	-0.15
	18. 職場での安全確保	4.45	4.29	4.24	4.10	-0.16	-0.05	-0.14
	19. 職場内での男女の平等	3.93	3.86	3.93	3.86	-0.07	0.07	-0.07
	20. 女性の職場進出 (新規)	-	-	-	3.20	-	-	-
	21. 老人・身障者の就業機会	4.08	3.92	3.94	3.72	-0.16	0.02	-0.22
	22. 職業・居住地選択の自由	4.06	3.95	3.96	3.77	-0.11	0.01	-0.19
	23. 職業紹介・訓練の充実	-	-	3.94	3.78	-	-	-0.16
住宅	24. 持ち家の取得	4.42	4.22	4.28	3.94	-0.20	0.06	-0.34
	25. 各家族員の個室の確保	-	3.73	3.74	3.56	-	0.01	-0.18
	26. 良好な住環境	4.31	4.15	4.16	3.88	-0.16	0.01	-0.28
利便	27. 交通機関の利便性	4.25	4.06	4.07	3.81	-0.19	0.01	-0.26
	28. 渋滞の解消 (新規)	-	-	-	3.80	-	-	-
	29. 買物の利便性	4.10	3.94	3.88	3.75	-0.16	-0.06	-0.13
	30. 生活情報の得やすさ	-	-	3.86	3.72	-	-	-0.14
快適	31. 水使用の安心	4.63	4.50	4.56	4.39	-0.13	0.06	-0.17
	32. こみ、下水の衛生処理	4.59	4.50	4.45	4.34	-0.09	-0.05	-0.11
	33. 公園や親しめる自然環境 (改定)	4.21	4.04	4.04	3.90	-0.17	0.00	-0.14
	34. 公害の防止	4.48	4.34	4.39	4.20	-0.14	0.05	-0.19

表3-1-7 重要度の時系列比較（続き）

領域	項目	昭和54年	昭和59年	平成2年	平成7年	59年-54年	2年-59年	7年-2年
安全と個人	35. 米軍基地の安全管理の確保	4.38	4.33	4.35	4.07	-0.05	0.02	-0.28
	36. 防災対策の充実	4.53	4.45	4.45	4.36	-0.08	0.00	-0.09
	37. 交通安全の確保（改定）	4.65	4.53	4.52	4.31	-0.12	-0.01	-0.21
	38. 犯罪の防止	4.67	4.64	4.60	4.47	-0.03	-0.04	-0.13
	39. 法律適用の公正さ	4.63	4.58	4.54	4.24	-0.05	-0.04	-0.30
消費生活	40. 収入の着実な増加	4.44	4.41	4.35	4.26	-0.03	-0.06	-0.09
	41. 物価の安定	4.65	4.55	4.49	4.37	-0.10	-0.06	-0.12
	42. 老後に不要のない年金	4.57	4.47	4.51	4.44	-0.10	0.04	-0.07
	43. 税負担の公平さ	-	-	4.38	4.30	-	-	-0.08
	44. 商品・サービスの安全性の確保（新規）	-	-	-	4.01	-	-	-
余暇	45. 商品・サービスの苦情処理の充実	3.98	3.83	3.92	3.76	-0.15	0.09	-0.16
	46. 労働時間の短縮（改定）	3.47	3.40	3.55	3.63	-0.07	0.15	0.09
	47. 家族とのコミュニケーションの確保（新規）	-	-	-	4.00	-	-	-
	48. グラウンドや体育館の整備	3.83	3.61	3.56	3.52	-0.22	-0.05	-0.04
	49. 趣味の会への参加の機会	3.54	3.34	3.41	3.21	-0.20	0.07	-0.20
社会福祉	50. 多様な宿泊施設の整備 ※	-	-	3.11	3.07	-	-	-0.04
	51. 家事、育児、教育相談の充実	4.16	3.97	3.99	3.53	-0.19	0.02	-0.46
	52. 福祉施設やサービスの充実	4.54	4.37	4.45	4.11	-0.17	0.08	-0.34
	53. 独居老人や母子家庭の安心	4.53	4.34	4.41	4.13	-0.19	0.07	-0.28
	54. 保育所の充実	4.08	3.79	3.69	3.63	-0.29	-0.10	-0.06
地域活動	55. 学童保育所の充実（新規）	-	-	-	3.53	-	-	-
	56. 地域行事への参加	3.52	3.29	3.28	2.96	-0.23	-0.01	-0.32
	57. 集会場や公民館の利用機会	3.77	3.51	3.48	3.22	-0.26	-0.03	-0.26
	58. 自治会等の充実	3.78	3.51	3.52	3.22	-0.27	0.01	-0.30
	59. 住民意見の行政への反映	4.35	4.18	4.09	3.82	-0.17	-0.09	-0.27
	60. ボランティア	-	-	4.06	3.85	-	-	-0.21
	61. 相互扶助 ※	4.28	4.07	4.05	3.92	-0.21	-0.02	-0.13

（注） 1 平成7年で新設された項目

体力の維持・増強、小・中学校での能力を伸ばす教育、高校での各人に適した教育、女性の職場進出、渋滞の解消、  
商品・サービスの安全性の確保、家族とのコミュニケーションの確保、学童保育所の充実

2 平成7年で削除した項目

特殊教育の充実、文化遺産・史跡の保護、公共住宅の整備、親と子の会話

3 平成7年で他の項目に吸収された項目

転職の機会、県内就職の機会が職業・居住地選択の自由に、地価の安定が物価の安定に、犯罪検挙の充実、暴力対策が  
犯罪の防止に、それぞれ吸収された。

4 平成7年で改定された項目

公園や親しめる自然環境は、公園の整備、親しめる自然環境、緑地の確保の平均得点、交通安全の確保は、歩行者の安全確保、  
交通ルールの遵守の平均得点、労働時間の短縮は、週休2日制、労働時間の短縮、長期休暇の取得の平均得点である。

5 その他

※は、表現の変更があった項目である。

また、これら項目ごとの重要度の変化を領域別にみると（表3-1-8）、今回調査の特徴としては、「快適」領域で重要度が相対的に高くなった反面、「医療と保健」「社会福祉」領域などの重要度が低下したことが挙げられるが、全体的には、領域間の重要度の順位に大きな変化はなく、「安全と個人の保護」「医療と保健」「消費生活」等の領域が上位を占めており、生活の基盤となる領域の重要度が一貫して高い傾向を示している。

表3-1-8 領域別重要度得点の比較

領域	昭和54年		昭和59年		平成2年		平成7年	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
安全と個人の保護	2	4.59	1	4.54	1	4.52	1	4.29
快適	5	4.39	4	4.25	4	4.26	2	4.21
消費生活	4	4.40	3	4.29	3	4.43	3	4.19
医療と保健	1	4.60	2	4.50	2	4.45	4	4.17
労働・雇用	8	4.10	6	3.98	6	4.02	5	3.86
住宅	7	4.12	8	3.91	7	3.97	6	3.79
社会福祉	3	4.45	5	4.22	5	4.25	7	3.79
利便	9	4.08	9	3.85	8	3.94	8	3.77
教育	6	4.16	7	3.92	10	3.78	9	3.74
地域活動	10	3.94	10	3.71	11	3.75	10	3.50
教養・文化	11	3.79	11	3.53	9	3.79	11	3.49
余暇	12	3.58	12	3.44	12	3.43	12	3.49
県計		4.21		4.07		4.06		3.86

（注）安全と個人の保護は、防犯と安全の平均得点である。

## 2 生活の各側面に対する充足度

県民生活に関する個別具体的な項目（61項目）について、重要度と同様に、現在それがどの程度充足されているかを、「非常に満たされている」「かなり満たされている」「どちらともいえない」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」までの5段階に分けて回答を求めた（問2）。集計に当たっては、重要度と同様、各段階に5～1点のウェイトを与え、各項目ごとに平均得点を求め、充足度に対する県民の指標（充足度得点）とし、さらに、これらの項目を12の領域に分類し、各領域別の平均得点もあわせて算出した。

項目ごとに充足度得点をみると（表3-2-1）、最も得点の低い項目は「老人・身障者の就業機会」で、次いで「職業・居住地選択の自由」「夜遊びや非行の防止」「職業紹介・訓練の充実」「労働時間の短縮」の順となっており、一方、充足度の高い項目としては、「水使用の安心」「買い物の利便性」「ごみ、下水の衛生処理」「適切な診療」「救急患者の適切な治療」等となっている。平均得点の最も高い「水使用の安心」（3.64）から最も低い「老人・身障者の就業機会」（2.18）まで1.46ポイントの幅に分布しており、最高得点でも「かなり満たされている」（4点）を下回っている。また、全項目（61項目）の平均得点は2.72で「どちらともいえない」（3点）を下回り、総じて低い水準となっている。

表3-2-1 充足度の平均得点

領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	変動係数 ( $\sigma/M$ )	領域別 平均得点
医療と保健	1. 体力の維持・増強	2.79	1.13	40.5	3.03
	2. 費用の心配のない医療	2.94	1.18	40.1	
	3. 適切な診療	3.18	1.12	35.2	
	4. 病気の予防・健康相談	3.11	1.15	37.0	
	5. 救急患者の適切な治療	3.11	1.08	34.7	
教育	6. 幼稚園施設・内容の充実	3.06	0.98	32.0	2.71
	7. 小・中・高校の施設の整備	3.08	1.03	33.4	
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育	2.84	1.02	35.9	
	9. 高校での各人に適した教育	2.79	1.02	36.6	
	10. 大学教育の解放	2.59	1.09	42.1	
	11. 各種・専修学校の充実	2.35	1.14	48.5	
教養・文化	12. 夜遊びや非行の防止	2.27	1.17	51.5	2.51
	13. 文化施設の整備	2.47	1.21	49.0	
	14. 生涯学習の機会	2.51	1.11	44.2	
労働・雇用	15. 伝統工芸の振興	2.55	1.05	41.2	2.51
	16. 失業の不安の解消	2.40	1.21	50.4	
	17. 仕事のやりがい	2.52	1.25	49.6	
	18. 職場での安全確保	3.03	1.10	36.3	
	19. 職場内での男女の平等	2.61	1.09	41.8	
	20. 女性の職場進出	2.85	1.05	36.8	
	21. 老人・身障者の就業機会	2.18	1.03	47.2	
	22. 職業・居住地選択の事由	2.21	1.12	50.7	
23. 職業紹介・訓練の充実	2.31	1.08	46.8		
住宅	24. 持ち家の取得	2.61	1.46	55.9	2.69
	25. 各家族員の個室の確保	2.59	1.39	53.7	
	26. 良好な住環境	2.88	1.34	46.5	
利便	27. 交通機関の利便性	3.05	1.32	43.3	3.07
	28. 渋滞の解消	2.71	1.27	46.9	
	29. 買物の利便性	3.45	1.23	35.7	
	30. 生活情報の得やすさ	3.06	1.15	37.6	
快適	31. 水使用の安心	3.64	1.22	33.5	3.15
	32. ごみ、下水の衛生処理	3.29	1.25	38.0	
	33. 公園や親しめる自然環境	2.87	1.28	44.6	
	34. 公害の防止	2.81	1.29	45.9	

表3-2-1 充足度の平均得点(続き)

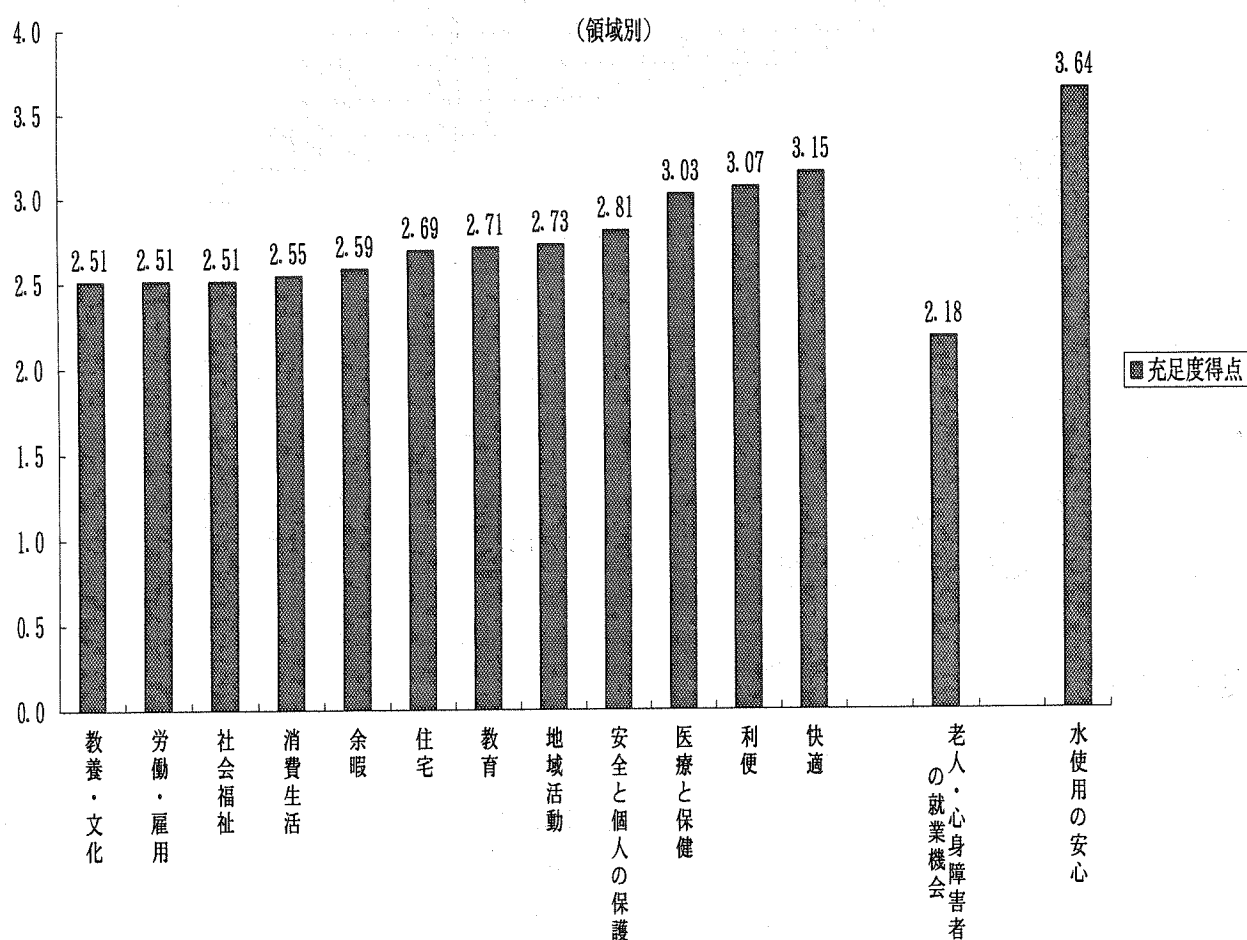
領域	項目	平均得点 (M)	標準偏差 ( $\sigma$ )	変動係数 ( $\sigma/M$ )	領域別 平均得点
安全と個人	35. 米軍基地の安全管理の確保	2.75	1.23	44.7	2.81
	36. 防災対策の充実	2.81	1.10	39.1	
	37. 交通安全の確保	2.59	1.16	44.8	
	38. 犯罪の防止	3.03	1.17	38.6	
	39. 法律適用の公正さ	2.88	1.03	35.8	
消費生活	40. 収入の着実な増加	2.44	1.12	45.9	2.55
	41. 物価の安定	2.51	1.08	43.0	
	42. 老後に不安のない年金	2.49	1.10	44.2	
	43. 税負担の公平さ	2.44	1.00	41.0	
	44. 商品・サービスの安全性の確保	2.85	1.02	35.8	
	45. 商品・サービスの苦情処理の充実	2.54	1.02	40.2	
余暇	46. 労働時間の短縮	2.31	1.12	48.5	2.59
	47. 家族とのコミュニケーションの確保	2.81	1.17	41.6	
	48. グラウンドや体育館の整備	2.75	1.21	44.0	
	49. 趣味の会への参加の機会	2.54	1.08	42.5	
	50. 多様な宿泊施設の整備	2.52	1.09	43.3	
社会福祉	51. 家事、育児、教育相談の充実	2.50	1.01	40.4	2.51
	52. 福祉施設やサービスの充実	2.38	1.04	43.7	
	53. 独居老人や母子家庭の安心	2.41	1.05	43.6	
	54. 保育所の充実	2.67	1.05	39.3	
	55. 学童保育所の充実	2.61	1.05	40.2	
地域活動	56. 地域行事への参加	2.85	1.12	39.3	2.73
	57. 集会場や公民館の利用機会	2.91	1.13	38.8	
	58. 自治会等の充実	2.81	1.07	38.1	
	59. 住民意見の行政への反映	2.55	1.02	40.0	
	60. ボランティア	2.56	1.02	39.8	
	61. 相互扶助	2.70	1.06	39.3	
県計		2.72	1.13	41.9	



領域別にみると（図3-2-1）、「教養・文化」「労働・雇用」「社会福祉」「消費生活」等の充足度が低くなっており、一方、「快適」「利便」「医療と保健」等の領域の充足度は相対的に高くなっている。また、前述の、領域別の重要度（図3-1-1）との関係を見ると、「労働・雇用」「消費生活」などは、重要度が高いにもかかわらず充足度が低くなっている領域で、「快適」や「医療と保健」などは、重要度が高くかつ、充足度も高い領域であり、「教養・文化」は重要度、充足度ともに低い領域となっている。

図3-2-1 充足度得点

（最高・最低の項目）



### (1) 充足度の高い項目と低い項目

充足度の低い項目と高い項目をそれぞれ15項目抜き出したのが、表3-2-2、表3-2-3である。

まず、充足度の低い項目をみると、老人・身障害者の就業機会、職業・居住地選択の自由、労働時間の短縮、失業の不安の解消など「労働・雇用」領域に関するものが最も多く、次いで、福祉施設やサービスの充実、独居老人や母子家庭の安心、家事・育児・教育相談の充実など「社会福祉」領域に関する

る項目や、文化施設の整備、生涯学習の機会など「教養・文化」領域に関する項目が並んでいる。また、収入の着実な増加、税負担の公平さ、老後に不安のない年金など「消費生活」領域に関する項目や、夜遊びや非行の防止、各種・専修学校の充実など「教育」領域及び、労働時間の短縮の「余暇」領域に関する項目も、充足度の低い項目として挙っている。

また、前回調査との比較でみると、夜遊びや非行の防止（28位→3位）、職業紹介・訓練の充実（13位→4位）、老後に不安のない年金（21位→13位）、家事・育児・教育相談の充実（23位→14位）などの充足度が低下した反面、税負担の公平さ（3位→11位）、商品・サービスの苦情処理の充実（6位→19位）、米軍基地の安全管理の確保（12位→33位）などの充足度は上昇している。

表3-2-2 充足度の低い項目

領 域	番 号	項 目	平成2年		平成7年	
			順位	得点	順位	得点
労働・雇用	21	老人・身障者の就業機会	1	2.23	1	2.18
労働・雇用	22	職業・居住地選択の自由	2	2.31	2	2.21
教育	12	夜遊びや非行の防止	28	2.78	3	2.27
労働・雇用	23	職業紹介・訓練の充実	13	2.57	4	2.31
余暇	46	労働時間の短縮（改定）	4	2.38	5	2.31
教育	11	各種・専修学校の充実	5	2.40	6	2.35
社会福祉	52	福祉施設やサービスの充実	11	2.53	7	2.38
労働・雇用	16	失業の不安の解消	7	2.46	8	2.40
社会福祉	53	独居老人や母子家庭の安心	14	2.58	9	2.41
消費生活	40	収入の着実な増加	9	2.48	10	2.44
消費生活	43	税負担の公平さ	3	2.33	11	2.44
教養・文化	13	文化施設の整備	19	2.66	12	2.47
消費生活	42	老後に不安のない年金	21	2.69	13	2.49
社会福祉	51	家事・育児・教育相談の充実	23	2.70	14	2.50
教養・文化	14	生涯学習の機会	22	2.70	15	2.51

平成2年上位15項目中、上記に記載されていない項目

領 域	番 号	項 目	順位	備 考	
				平成7年調査項目との比較	順位
消費生活	45	商品苦情相談の充実	6	45商品・サービスの苦情処理の充実	19
消費生活	42	物価の安定	8	41物価の安定	16
安全	39	歩行者の安全確保	10	37交通安全の確保（改定）	26
安全	37	基地の安全管理の確保	12	35米軍基地の安全管理の確保	33
余暇	49	クラブ参加機会	15	49趣味の会への参加の機会	20

（注）（改定）については項目の統合を行っているため厳密には接続しない。

一方、充足度の比較的高い項目をみると、適切な診療、救急患者の適切な治療、病気の子防・健康相談、費用の心配のない医療など「医療と保健」領域に関するものが最も多く、次いで、買い物の利便性、生活情報の得やすさ、交通機関の利便性など「利便」領域に関する項目や、水使用の安心、ごみ・下水の衛生処理など「快適」領域に関する項目が並んでいる。また、犯罪の防止の「安全と個人の保護」領域や、集会場や公民館の利用機会、小・中・高校の施設の整備、幼稚園施設・内容の充実、良好な住環境、職場での安全確保なども、充足度の高い項目として挙っている。

このように、「医療と保健」「利便」「快適」などの領域においては、社会資本の整備や各種制度の充実と相まって、県民の意識の上でもかなり充足されてきているものと考えられる。

また、前回調査との比較でみると、ごみ・下水の衛生処理（16位→3位）、生活情報の得やすさ（18位→8位）などの充足度が高くなったのに対して、相互扶助（4位→31位）、地域行事への参加（8位→20位）などの充足度が低下している。

表3-2-3 充足度の高い項目（比較的充足されている項目）

領 域	番 号	項 目	平成2年		平成7年	
			順位	得点	順位	得点
快適	31	水使用の安心	1	3.83	1	3.64
利便	29	買物の利便性	2	3.56	2	3.45
快適	32	ごみ、下水の衛生処理	16	3.09	3	3.29
医療と保健	3	適切な診療	3	3.55	4	3.18
医療と保健	5	救急患者の適切な治療	6	3.32	5	3.11
医療と保健	4	病気の予防・健康相談	5	3.36	6	3.11
教育	7	小・中・高校の施設の整備	10	3.23	7	3.08
利便	30	生活情報の得やすさ	18	3.08	8	3.06
教育	6	幼稚園施設・内容の充実	7	3.25	9	3.06
利便	27	交通機関の利便性	9	3.24	10	3.05
安全と個人の保護	38	犯罪の防止	15	3.12	11	3.03
労働・雇用	18	職場での安全確保	14	3.17	12	3.03
医療と保健	2	費用の心配のない医療	13	3.18	13	2.94
地域活動	57	集会場や公民館の利用機会	11	3.21	14	2.91
住宅	26	良好な住環境	12	3.19	15	2.88

平成2年下位15項目中、上記に記載されていない項目

領 域	番 号	項 目	順位	備 考	
				平成7年調査項目との比較	順位
地域活動	61	近隣とのつきあい	4	61相互扶助	31
地域活動	62	地域行事への参加	8	56地域行事への参加	20

（注）（改定）については項目の統合を行っているため厳密には接続しない。

## （2）領域別の比較

次に、領域ごとの充足度の平均点を算出し、その順位と上下15位に入った項目数についてみると（表3-2-4）、「教養・文化」領域をはじめ、「労働・雇用」「社会福祉」「消費生活」などの領域の得点が低く、一方、「快適」領域のほか、「利便」「医療と保健」などの領域の得点は、比較的高くなっている。また、「余暇」から「安全と個人の保護」までの中位にある領域のなかでは、「教育」領域の項目が上位と下位の両方に入っており、項目による変動が大きくなっている。

充足度の低い領域のうち、「労働・雇用」や「消費生活」などは、生活上の実利的な側面が強く、個人差も大きいものとみられ、これに対して、「快適」をはじめとする充足度の高い領域は、どちらかといえば生活を取り巻く外的条件にかかわるもので、個人差も出にくいものであると考えられる。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の低い「教養・文化」領域では、3項目中2項目が下位に入っており、次いで、「労働・雇用」が8項目中4項目、「社会福祉」が5項目中3項目、「消費生活」が6項目中3項目となっているが、得点が最も高い「快適」領域では、4項目中2項目が上位に入ったほか、「利便」が4項目中3項目、「医療と保健」が5項目中4項目となっている。平均得点が最も低い「教養・文化」領域と、最も高い「快適」領域では、得点に0.64ポイントの開きが

あり、領域の平均得点の大小と上下15位に入った項目数との間には相関がみられることから、領域間の充足度に差があることが分る。

このように、充足度が比較的高い領域もある一方で、県民生活と直接に関わりの深い「労働・雇用」や「消費生活」に関する領域の充足度はいまだ低く、これらの領域における施策の充実を今後とも図っていく必要がある。

表3-2-4 領域別にみた充足度

順位	領域	領域ごとの平均得点	上位15位に入った項目数	下位15位に入った項目数
1	快適	3.15	2/4	
2	利便	3.07	3/4	
3	医療と保健	3.03	4/5	
4	安全と個人の保護	2.81	1/5	
5	地域活動	2.73	1/6	
6	教育	2.71	2/7	2/7
7	住宅	2.69	1/3	
8	余暇	2.59		1/5
9	消費生活	2.55		3/6
10	社会福祉	2.51		3/5
11	労働・雇用	2.51	1/8	4/8
12	教養・文化	2.51		2/3

(注) 分母の数字は、各領域の項目数

### (3) 地域別の充足度

次に、地域別、領域別の充足度をみると（表3-2-5）、宮古地域が12領域中7領域で最も低い充足度を示し、全体で最も充足度の低い地域となっている。また、北部地域は、宮古に次いで充足度の低い領域が多く、全体でも2位となっており、以下、中部、八重山、那覇市と続き、南部地域は、ほとんどの領域で最も高い充足度を示している。個別にみると、最も充足度の低かった宮古地域においても、「消費生活」「利便」「住宅」などの領域は、比較的高い充足度を示しており、次に低かった北部地域でも、「住宅」「余暇」「地域活動」などの充足度は高くなっている。また、中部地域においては、「利便」と「安全と個人の保護」領域の充足度が低く、八重山地域では、「教育」と「消費生活」の充足度が低いのにに対して、「利便」領域の充足度が高くなっているのが特徴的である。一方、那覇市においては、「住宅」と「地域活動」の充足度が低くなっており、南部地域では、「教養・文化」と「利便」領域の充足度が若干低くなっている。

表 3 - 2 - 5 地域別・領域別充足度得点

領域	北 部		中 部		那 覇 市		南 部		宮 古		八 重 山		県 計
	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	順位	得 点	
医療と保健	3	2.95	4	3.01	5	3.07	6	3.11	1	2.86	2	2.93	3.03
教育	3	2.58	4	2.71	5	2.78	6	2.79	2	2.54	1	2.46	2.71
教養・文化	2	2.33	4	2.54	6	2.60	3	2.44	1	2.33	5	2.57	2.51
労働・雇用	2	2.95	3	2.48	6	2.61	5	2.60	1	2.35	4	2.50	2.51
住宅	4	2.77	2	2.68	1	2.45	6	2.96	5	2.88	3	2.72	2.69
利便	2	3.10	1	2.94	5	3.18	3	3.11	4	3.16	6	3.35	3.07
快適	3	3.20	2	3.05	4	3.21	6	3.27	1	3.01	5	3.27	3.15
安全と個人の保護	2	2.78	1	2.70	5	2.88	6	2.97	3	2.86	4	2.87	2.81
消費生活	2	2.44	3	2.50	5	2.62	6	2.66	4	2.52	1	2.40	2.55
余暇	5	2.59	3	2.55	4	2.56	6	2.74	1	2.51	2	2.52	2.59
社会福祉	4	2.50	3	2.49	5	2.56	6	2.60	1	2.33	2	2.35	2.51
地域活動	5	2.78	4	2.74	2	2.58	6	2.96	1	2.53	3	2.59	2.73
計	2	2.70	3	2.70	5	2.76	6	2.85	1	2.66	4	2.71	2.74

(注) 順位は、各領域の地域間の順位である。

これを地域別の項目順位（低い順）で見ると（表 3 - 2 - 6）、平均得点が最も低いのは、北部と中部が職業・居住地選択の自由、宮古と八重山が各種・専修学校の充実、那覇市が夜遊びや非行の防止、南部が文化施設の整備となっている。

また、2位については、八重山が夜遊びや非行の防止で、その他の地域が老人・身障者の就業機会となっており、3位は北部が各種・専修学校の充実、中部が夜遊びや非行の防止、那覇が労働時間の短縮、南部が職業・居住地選択の自由、宮古が職業紹介・訓練の充実、八重山が老人・身障者の就業機会となっている。このように、充足度の低い項目の順位は、地域によって異なる状況にあり、特に、宮古と八重山で各種・専修学校の充実、南部で文化施設の整備の充足度が最も低くなっているのが特徴的である。

また、地域別の項目順位を県計の順位と比較すると、充足度得点が最も低い宮古地域では、多様な宿泊施設の整備をはじめ、伝統工芸の振興、地域行事への参加、費用の心配のない医療など、充足度が低い項目が多い反面、税負担の公平さ、老後に不安のない年金、物価の安定、持家の取得など、充足度の比較的高い項目も多く、順位が県計とは大きく異なっている。また、北部地域では、職場内での男女の平等、高校での各人に適した教育、商品・サービスの安全性の確保、生活情報の得やすさなどの充足度が低く、逆に、独居老人や母子家庭の安心、家事・育児・教育相談の充実、渋滞の解消、公害の防止などは高くなっている。一方、充足度得点が最も高い南部地域では、公園や親しめる自然環境、交通機関の利便性、小・中・高校の施設の整備などの充足度は相対的に低かったが、収入の着実な増加、老後に不安のない年金、自治会等の充実、良好な住環境など、比較的高い項目が多くなっている。また、中部地域では、渋滞の解消、米軍基地の安全管理の確保、法律適用の公正さなどの充足度は比較的低いが、文化施設の整備、生涯学習の機会、各家族員の個室の確保などの項目で充足度が高くなっている。その他、八重山地域では、住民意見の行政への反映、防災対策の充実、小・中学校での能力を伸ばす教育、交通機関の利便性などの充足度が低く、那覇市では、各家族員の個室の確保、持家の取得、グラウンドや体育館の整備、自治会等の充実、良好な住環境などの項目が相対的に低い充足度となっている。なお、那覇市では、各種・専修学校の充実や商品・サービスの苦情処理の充実などの充足度が、比較的高くなっている。

表3-2-6 地域別・項目別充足度得点順位表（低い順位）

県	計	項目	順位	地域別					
				北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
21.		老人・身障者の就業機会	1	2	2	2	2	2	3
22.		職業・居住地選択の自由	2	1	1	4	3	4	4
12.		夜遊びや非行の防止	3	6	3	1	5	9	2
23.		職業紹介・訓練の充実	4	4	5	13	4	3	6
46.		労働時間の短縮	5	5	4	3	6	14	5
11.		各種・専修学校の充実	6	3	6	32	7	1	1
52.		福祉施設やサービスの充実	7	13	9	8	8	5	7
16.		失業の不安の解消	8	7	8	9	12	10	18
53.		独居老人や母子家庭の安心	9	17	11	6	11	8	8
40.		収入の着実な増加	10	16	7	10	18	11	16
43.		税負担の公平さ	11	8	10	18	10	29	22
13.		文化施設の整備	12	9	26	15	1	16	34
42.		老後に不安のない年金	13	20	12	11	21	25	12
51.		家事、育児、教育相談の充実	14	22	16	19	13	13	15
14.		生涯学習の機会	15	10	22	25	9	21	13
41.		物価の安定	16	15	13	24	16	30	10
17.		仕事のやりがい	17	14	15	22	17	17	28
50.		多様な宿泊施設の整備	18	25	14	28	19	7	14
45.		商品・サービスの苦情処理の充実	19	11	19	36	15	12	11
49.		趣味の会への参加の機会	20	26	21	14	22	15	26
15.		伝統工芸の振興	21	12	23	33	14	6	32
59.		住民意見の行政への反映	22	23	24	16	25	22	9
60.		ボランティア	23	24	25	17	26	24	20
10.		大学教育の解放	24	18	28	31	23	20	17
25.		各家族員の個室の確保	25	30	32	5	28	33	31
37.		交通安全の確保	26	27	20	27	27	36	19
19.		職場内での男女の平等	27	19	27	35	20	27	33
24.		持ち家の取得	28	29	31	7	31	52	21
55.		学童保育所の充実	29	21	29	37	24	19	23
54.		保育所の充実	30	31	33	34	29	23	29
61.		相互扶助	31	33	34	26	36	34	24
28.		渋滞の解消	32	50	17	23	30	59	59
35.		米軍基地の安全管理の確保	33	38	18	45	41	51	58
48.		グラウンドや体育館の整備	34	45	41	12	33	40	41
1.		体力の維持・増強	35	35	37	38	39	26	37
9.		高校での各人に適した教育	36	28	38	39	38	32	30
34.		公害の防止	37	59	30	41	44	50	43
36.		防災対策の充実	38	34	39	44	35	48	25
47.		家族とのコミュニケーションの確保	39	39	35	42	43	43	40
58.		自治会等の充実	40	43	45	20	50	28	36
8.		小・中学校での能力を伸ばす教育	41	37	46	43	37	42	27
20.		女性の職場進出	42	36	36	48	40	39	46
44.		商品・サービスの安全性の確保	43	32	44	46	34	38	35
56.		地域行事への参加	44	47	47	29	49	18	38
33.		公園や親しめる自然環境	45	48	43	40	32	46	57

表 3 - 2 - 6 地域別・項目別充足度得点順位表（低い順位）（続き）

県 項 目	計 順 位	地 域 別					
		北 部	中 部	那 覇 市	南 部	宮 古	八 重 山
26. 良好な住環境	46	51	42	21	58	53	56
39. 法律適用の公正さ	47	40	40	47	46	37	45
57. 集会場や公民館の利用機会	48	57	51	30	56	31	48
2. 費用の心配のない医療	49	41	48	49	47	35	42
18. 職場での安全確保	50	42	53	50	51	49	55
38. 犯罪の防止	51	55	49	51	57	54	53
27. 交通機関の利便性	52	54	52	58	42	47	39
6. 幼稚園施設・内容の充実	53	46	54	53	48	41	51
30. 生活情報の得やすさ	54	44	50	56	53	57	52
7. 小・中・高校の施設の整備	55	49	55	55	45	55	49
4. 病気の予防・健康相談	56	52	56	54	52	58	54
5. 救急患者の適切な治療	57	53	57	52	54	45	47
3. 適切な診療	58	58	58	57	55	56	50
32. ごみ、下水の衛生処理	59	56	59	59	59	44	44
29. 買物の利便性	60	60	60	60	60	60	60
31. 水使用の安心	61	61	61	61	61	61	61

#### (4) 充足度の時系列比較

次に、充足度の水準が昭和54年、59年、平成2年と比べてどのように変化したかをみるため、時系列比較し、その変化の方向を整理したのが表3-2-7である。なお、前述のとおり、全体を通して比較可能なのは61項目中42項目で、昭和59年については43項目、平成2年については50項目が比較可能である。

全体を通覧すると、充足度の変動幅は、昭和54年→59年が $+0.35 \sim -0.09$ 、昭和59年→平成2年が $+0.30 \sim -0.08$ と概して小さいのに対して、平成2年→7年は $+0.20 \sim -0.68$ と比較的減少幅が大きくなっている。また、変化の方向についてみると、昭和54年→59年では42項目中、上昇した項目が36、低下した項目が6、昭和59年→平成2年では43項目中、上昇した項目が25、低下した項目が15となっており、いずれも上昇した項目が多くなっているのに対して、平成2年→7年では50項目中、上昇した項目が7、低下した項目が43と、充足度の低下した項目数が大幅に増加している。このように全体的な充足度の動向は、昭和54年から平成2年までは上昇傾向であったが、平成2年→7年は低下傾向となっている。昭和54年→59年では、物価の安定、犯罪の防止、文化施設の整備、趣味の会への参加、グラウンドや体育館の整備などの項目の上昇が相対的に大きく、また、昭和59年→平成2年では、物価の安定、病気の予防・健康相談、収入の着実な増加などの項目の上昇が目立った。一方、平成2年→7年では、ゴミ・下水の衛生処理や米軍基地の安全管理の確保など、充足度の上昇幅の大きい項目もあるものの、多くの項目で充足度は低下しており、なかでも、相互扶助、夜遊びや非行の防止、地域行事への参加、伝統工芸の振興、適切な診療などの低下が目立った。



表3-2-7 充足度の時系列比較

領域	項目	昭和54年	昭和59年	平成2年	平成7年	59年-54年	2年-59年	7年-2年
医療と保健	1. 体力の維持・増強 (新規)	-	-	-	2.79	-	-	-
	2. 費用の心配のない医療	3.01	3.04	3.18	2.94	0.03	0.14	-0.24
	3. 適切な診療	3.21	3.39	3.55	3.18	0.18	0.16	-0.37
	4. 病気の予防・健康相談	3.01	3.11	3.36	3.11	0.10	0.25	-0.25
	5. 救急患者の適切な治療	3.03	3.19	3.32	3.11	0.16	0.13	-0.21
教育	6. 幼稚園施設・内容の充実	3.13	3.24	3.25	3.06	0.11	0.01	-0.19
	7. 小・中・高校の施設の整備	3.10	3.24	3.23	3.08	0.14	-0.01	-0.15
	8. 小・中学校での能力を伸ばす教育 (新規)	-	-	-	2.84	-	-	-
	9. 高校での各人に適した教育 (新規)	-	-	-	2.79	-	-	-
	10. 大学教育の解放	-	-	2.81	2.59	-	-	-0.22
	11. 各種・専修学校の充実	2.38	2.43	2.40	2.35	0.05	-0.03	-0.05
	12. 夜遊びや非行の防止	2.70	2.79	2.78	2.27	0.09	-0.01	-0.51
教養・文化	13. 文化施設の整備 ※	2.42	2.64	2.66	2.47	0.22	0.02	-0.19
	14. 生涯学習の機会	-	-	2.70	2.51	-	-	-0.19
	15. 伝統工芸の振興	2.83	2.87	2.92	2.55	0.04	0.05	-0.37
労働・雇用	16. 失業の不安の解消	2.23	2.27	2.46	2.40	0.04	0.19	-0.06
	17. 仕事のやりがい	2.44	2.59	2.61	2.52	0.15	0.02	-0.09
	18. 職場での安全確保	3.09	3.18	3.17	3.03	0.09	-0.01	-0.14
	19. 職場内での男女の平等	2.59	2.66	2.65	2.61	0.07	-0.01	-0.04
	20. 女性の職場進出 (新規)	-	-	-	2.85	-	-	-
	21. 老人・身障者の就業機会	2.12	2.23	2.23	2.18	0.11	0.00	-0.05
	22. 職業・居住地選択の自由	2.24	2.31	2.31	2.21	0.07	0.00	-0.10
	23. 職業紹介・訓練の充実	-	-	2.57	2.31	-	-	-0.26
住宅	24. 持ち家の取得	2.91	2.90	2.82	2.61	-0.01	-0.08	-0.21
	25. 各家族員の個室の確保	-	2.67	2.63	2.59	-	-0.04	-0.04
	26. 良好な住環境	3.16	3.10	3.19	2.88	-0.06	0.09	-0.31
利便	27. 交通機関の利便性	3.11	3.14	3.24	3.05	0.03	0.10	-0.19
	28. 渋滞の解消 (新規)	-	-	-	2.71	-	-	-
	29. 買物の利便性	3.36	3.38	3.56	3.45	0.02	0.18	-0.11
	30. 生活情報の得やすさ	-	-	3.08	3.06	-	-	-0.02
快適	31. 水使用の安心	3.91	3.88	3.83	3.64	-0.03	-0.05	-0.19
	32. ごみ、下水の衛生処理	2.96	3.03	3.09	3.29	0.07	0.06	0.20
	33. 公園や親しめる自然環境 (改定)	2.61	2.71	2.75	2.87	0.10	0.04	0.12
	34. 公害の防止	2.73	2.75	2.79	2.81	0.02	0.04	0.02

表3-2-7 充足度の時系列比較（続き）

領域	項目	昭和54年	昭和59年	平成2年	平成7年	59年-54年	2年-59年	7年-2年
安全と個人	35. 米軍基地の安全管理の確保	2.59	2.60	2.55	2.75	0.01	-0.05	0.20
	36. 防災対策の充実	2.88	2.96	2.98	2.81	0.08	0.02	-0.17
	37. 交通安全の確保（改定）	2.26	2.47	2.51	2.59	0.21	0.03	0.09
	38. 犯罪の防止	2.84	3.10	3.12	3.03	0.26	0.02	-0.09
	39. 法律適用の公正さ	2.91	3.01	3.01	2.88	0.10	0.00	-0.13
消費生活	40. 収入の着実な増加	2.37	2.28	2.48	2.44	-0.09	0.20	-0.04
	41. 物価の安定	1.82	2.17	2.47	2.51	0.35	0.30	0.04
	42. 老後に不安のない年金	2.58	2.60	2.69	2.49	0.02	0.09	-0.20
	43. 税負担の公平さ	-	-	2.33	2.44	-	-	0.11
	44. 商品・サービスの安全性の確保（新規）	-	-	-	2.85	-	-	-
	45. 商品・サービスの苦情処理の充実	2.21	2.36	2.42	2.54	0.15	0.06	0.12
余暇	46. 労働時間の短縮（改定）	2.37	2.38	2.38	2.31	0.00	0.00	-0.07
	47. 家族とのコミュニケーションの確保（新規）	-	-	-	2.81	-	-	-
	48. グラウンドや体育館の整備	2.42	2.62	2.74	2.75	0.20	0.12	0.01
	49. 趣味の会への参加の機会	2.29	2.50	2.59	2.54	0.21	0.09	-0.05
	50. 多様な宿泊施設の整備 ※	-	-	2.67	2.52	-	-	-0.15
社会福祉	51. 家事、育児、教育相談の充実	2.60	2.71	2.70	2.50	0.11	-0.01	-0.20
	52. 福祉施設やサービスの充実	2.43	2.57	2.53	2.38	0.14	-0.04	-0.15
	53. 独居老人や母子家庭の安心	2.46	2.60	2.58	2.41	0.14	-0.02	-0.17
	54. 保育所の充実	2.76	2.91	3.01	2.67	0.15	0.10	-0.34
	55. 学童保育所の充実（新規）	-	-	-	2.61	-	-	-
地域活動	56. 地域行事への参加	3.32	3.29	3.24	2.85	-0.03	-0.05	-0.39
	57. 集会場や公民館の利用機会	3.12	3.20	3.21	2.91	0.08	0.01	-0.30
	58. 自治会等の充実	3.05	3.09	3.08	2.81	0.04	-0.01	-0.27
	59. 住民意見の行政への反映	2.56	2.65	2.70	2.55	0.09	0.05	-0.15
	60. ボランティア	-	-	2.76	2.56	-	-	-0.20
	61. 相互扶助 ※	3.50	3.44	3.38	2.70	-0.06	-0.06	-0.68

(注) 表3-1-7参照

また、これら項目ごとの充足度の変化を領域別にみると（表3-2-8）、今回調査の特徴としては、「安全と個人の保護」「快適」領域などで充足度が相対的に高くなった反面、「教養・文化」「社会福祉」領域などの充足度が低下したことが挙げられるが、全体的には、「消費生活」「労働・雇用」「余暇」などの領域の充足度が一貫して低く、反面、「医療と保健」「利便」などの領域は比較的高い充足度を保っている。

表3-2-8 領域別充足度得点の比較

領域	昭和54年		昭和59年		平成2年		平成7年	
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
教養・文化	4	2.64	5	2.75	9	2.89	1	2.51
労働・雇用	3	2.46	3	2.54	2	2.55	2	2.51
社会福祉	7	2.85	7	2.95	7	2.84	3	2.51
消費生活	1	2.31	1	2.41	1	2.48	4	2.55
余暇	2	2.36	2	2.47	3	2.55	5	2.59
住宅	6	2.72	4	2.72	4	2.69	6	2.69
教育	9	2.99	9	3.03	8	2.84	7	2.71
地域活動	12	3.11	10	3.13	10	3.06	8	2.73
安全と個人の保護	5	2.69	6	2.79	6	2.83	9	2.81
医療と保健	10	3.09	11	3.18	12	3.35	10	3.03
利便	11	3.10	12	3.21	11	3.29	11	3.07
快適	8	2.91	8	2.96	5	2.79	12	3.15
県計		2.76		3.82		2.83		2.74

（注）安全と個人の保護は、防犯と安全の平均得点である。

### 3 生活の各側面に対するニーズ

これまで、県民生活に関する個別具体的な項目について、その重要度と充足度をみてきたが、生活に対するニーズは、両者とも関係しているため、以下の式で定義されるニーズ得点を算出し、県民のニーズに関する評価の指標（ニーズ得点）とした。

$$\text{ニーズ得点} = \text{重要度得点} \times (6 - \text{充足度得点})$$

ここで、(6-充足度得点)は未充足度を意味し、ニーズ得点は、重要度、充足度によって変化し、重要度が高いにもかかわらず充足されていない項目ほど、高くなるという関係にある。

項目別にニーズ得点をみると（表3-3-1）、最も高いのは「夜遊びや非行の防止」で、次いで、「老後に不安のない年金」「失業の不安の解消」「税負担の公平さ」「物価の安定」の順となっており、一方、低い項目としては、「地域行事への参加」「買い物の利便性」「集会場や公民館の利用機会」「女性の職場進出」「自治会等の充実」等となっている。

ニーズ得点1位の「夜遊びや非行の防止」(15.53)から、61位の「地域行事への参加」(9.07)まで、6.46ポイントの幅に分布し、最低の項目でも「どちらともいえない」(9点)の平均的なニーズ得点を上回っている。また、全項目(61項目)の平均得点は12.49となっており、総体として県民の生活項目へのニーズはかなり強いといえる。